鍵盤の王

EARLY MUSIC today（英古楽誌）

King of the keyboards

止められない
マハン・エスファハニの才能！
（アーリー・ミュージック・トゥデイ）

マハン・エスファハニ

チェンバロ・リサイタル

2013.6.4［火］19:00開演／18:30開場

東京文化会館小ホール 〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45 TEL.03-3828-2111(代表)

全席指定（税込）：4,000円　前売ペアシート：7,000円　※ペアシートは、ユーラシックのみ取り扱い

チケット予約	ユーラシック 03-3481-8788	チケットぴあ 0570-02-9999［Pコード：192-570］ イープラスe+ http://eplus.jp/ 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

主催：ユーラシック　お問合せ：ユーラシック 03-3481-8788

※都合により公演内容の1部が変更になる場合がございます。※未就学児の入場はご遠慮下さい。

ウィリアム・バード
- 解き明かしたまえ主よ(I, II, III)
- ドレミファソラ
- ジョン、今キスしに来て
- 第5パヴァーヌと第5パヴァーヌへのガリアルド

ウィリアム・バード
- 「戦争」への行進曲
- ファンシー（マイ・レディ・ネヴェル曲集第41曲）
- 第1パヴァーヌと第1パヴァーヌへのガリアルド

ウィリアム・バード
- カリーノ・カスチュラメ
- ファンタジア
- ウォルシンガムへ

J.S.バッハ
- バッハ「音楽の捧げもの」BWV1079より
  - 3声のリチェルカーレ
  - 6声のリチェルカーレ
  - 2声のカノン：昇り行く調が如く王の栄光高まらんことを

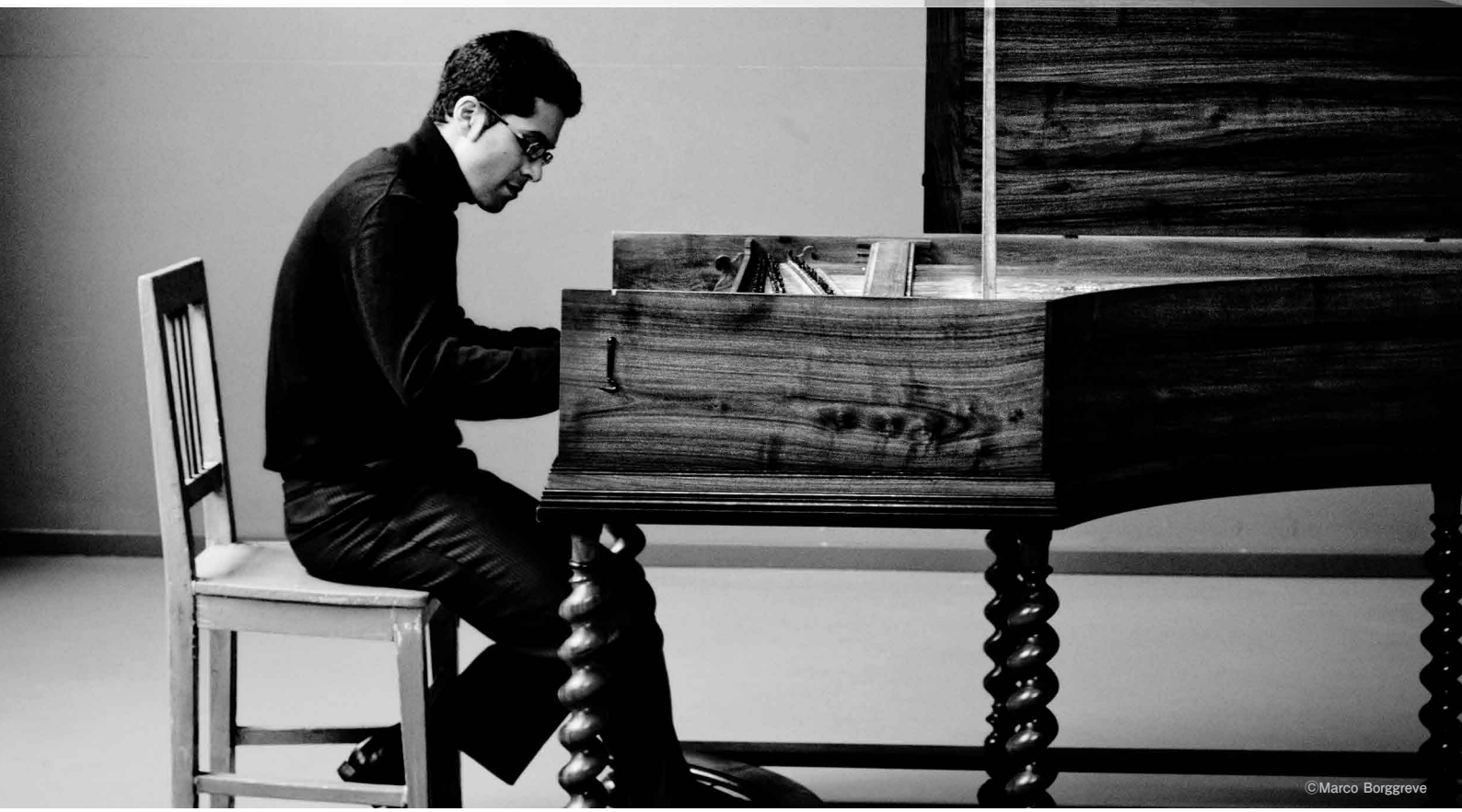
リゲティ
- ハンガリー風パッサカリア（1978）
- コンティヌウム（1968）
- ハンガリーのロック（1978）

©Marco Borggreve

「非凡なる才能」～タイムズ紙（英）

「繊細にして躍動的」～アーリー・ミュージック・トゥデイ（英）

「ついにチェンバロが日の目を見た――見事な演奏だ」～デイリー・テレグラフ（英）



彗星のごとく出現したイラン系アメリカ人の鍵盤奏者、マハン・エスファハニはいったいどこからやってきてどこに向かっていくのだろう。その繊細にして躍動的な撥弦音のひとつひとつが未知の生命を創造するかのようなマハン・エスファハニのチェンバロは、いまイギリスを中心にヨーロッパの古楽界を驚嘆の渦に巻き込んでいるという。それはオランダの巨匠亡きあとの古楽界に新時代の救世主が現れたといっても過言ではないかもしれない。

そのマハン・エスファハニが、ロンドンのウィグモアホールと同じ斬新的プログラムを携えて日本デビューを迎えようとしている。ウィリアム・バード、バッハ、そしてリゲティという400年余の時空を超えた伝統と革新的プログラムで、そのもっとも未来に耀いている姿を日本で現す日がまもなくやってくる。

MAHAN ESFAHANI CEMBALO RECITAL

William Byrd (c.1540-1623)
- Clarifica me, Pater (I, II, III)
- Ut Re Mi Fa Sol La
- John Come Kisse Me Now
- The Fifte Pavian and The Galliard to the Fifte Pavian

William Byrd
- The Marche Before the Battell
- Fancie (Nevell 41)
- The Firste Pavian and The Galliarde to the Firste Pavian

William Byrd
- Callino Casturame
- Fantasia (MB 13)
- Have with Yow to Walsingame

J.S.Bach (1685-1750)
- from Das Musikalische Opfer, BWV 1079
  - Ricercarà 3
  - Ricercarà 6
  - Canonà 2, per tonos : ascendente modulatione ascendat Gloria Regis

György Ligeti (1923-2006)
- Passacaglia ungharese (1978)
- Continuum (1968)
- Hungarian Rock (1978)

マハン・エスファハニ（チェンバロ） Mahan Esfahani : Cembalo

2011年BBCプロムスにデビュー、この音楽祭の116年の歴史で最初のチェンバロ・リサイタルを行なったアーティスト!

「非凡なる才能」（タイムズ紙）、「繊細にして躍動的」（アーリーミュージック・トゥデイ誌）などと評されるイラン系アメリカ人のチェンバロ奏者、マハン・エスファハニ（1984年生）は、この世代を代表するソロ・チェンバリストとしてその地位を確立してきた。チェンバロ奏者として初めてBBCラジオ3の「ニュー・ジェネレーション・アーティスト」に選ばれ、同じくボルレッティ・ブイトーニ・トラストのフェローシップ賞もチェンバロ奏者として初受賞。

最近の主な活動では、カラビスの「チェンバロ協奏曲」（1975年作曲）をBBCコンサート・オーケストラと、マルティヌーの「チェンバロ協奏曲」（1935）をイルジ・ビエロフラーヴェク指揮BBC交響楽団と、プーランクの「田園協奏曲」（1928）をBBCウェールズ交響楽団と演奏。2010年にはウィグモア・ホールにソロ・デビュー、その演奏の模様はBBCラジオ3で生放送され、デイリー・テレグラフ紙で「ついにチェンバロが日の目を見た―見事な演奏だ」と絶賛された。また、シティ・オヴ・ロンドン音楽祭、ヨーク古楽音楽祭にも登場。プーランクの協奏曲のCDは、2010年5月のBBCミュージック・マガジンで「今月の1枚」に推され、またクラシックFMマガジンでも今もっとも注目のアーティストとして特集された。

2011年には、カウンターテナーのジェームズ・ボウマンとウィグモア・ホールで共演。また、マンチェスター・カメラータ、アリオン・バロック管弦楽団（モントリオール）、そしてイングリッシュ・コンサート（ルフトハンザ・バロック音楽祭）を弾き振りした。さらに、アメリカでのソロ・リサイタルのほか、3月にはマレーシア管弦楽団と協奏曲を演奏、アジア・デビューを飾っている。

ソリストおよび客演指揮者として、これまでにイングリッシュ・コンサート、マンチェスター・カメラータ、シアトル・バロック管弦楽団に招かれるほか、BBCプロムス、レーゲンスブルク古楽音楽祭、ゲッティンゲン・ヘンデル音楽祭、ミラノのモーツァルト週間、ニューヨークのメトロポリタン美術館、サンフランシスコ古楽協会等で演奏を行っている。

大統領奨学生としてスタンフォード大学で音楽学者のジョージ・ホールのもとで学び、さらにボストンでオーストラリアのチェンバリスト、ピーター・ワッチオーン、ミラノでイタリアのオルガニスト、ロレンツォ・ギエルミに師事。その後英国に移り、オックスフォード大学ニュー・カレッジのレジデント・アーティストに就任。2010年秋には、オックスフォード大学キーブル・カレッジの名誉会員にも選ばれている。